

	一般的名称	報告の概要
643	アセトアミノフェン	妊娠後期のアセトアミノフェンの摂取により、出生児の喘息、喘鳴の有病率が高まることが示唆された。
644	エストラジオール	フランスでのプロスペクティブコホート試験において、閉経後女性でエストロゲンを単独使用している患者では、乳癌リスクが上昇することが示唆された。
645	レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	明らかな心血管系疾患のない女性において、経口避妊薬を長期(10年間)使用した場合、頸動脈プラーク、大腿動脈プラークの保有率が高まることが示唆された。
646	ラベプラゾールナトリウム	プロトンポンプ阻害剤投与により、カンピロバクター及びサルモネラ胃腸炎の感染リスクが高まることが示唆された。
647	ヨード化ケン油脂肪酸エチルエステル	進行・再発管内胆管癌症例で、肝外転移を伴わない症例30例において、レシチン加リピオドールと塩酸ドキシソルピシンの動注を施行した5例で、心窩部不快感、吐き気、肝逸脱酵素の上昇、肝臓瘍の副作用が見られた。
648	ヨード化ケン油脂肪酸エチルエステル	切除不能多発肝細胞癌で、レシチンを用いた小粒子リピオドールエマルジョンを施行した21例において、発熱、食欲不振、悪心、肝機能障害、膵炎、冠動脈閉塞が見られた。
649	塩酸エルロチニブ	国内で実施中の切除不能肺癌患者に対するエルロチニブとゲムシタビン併用の第Ⅱ相臨床試験において、2008年1月26日時点で因果関係が否定できない重篤な間質性肺疾患様事象が106例中7例に報告され、海外第Ⅲ相臨床試験と比較して発現率が高かった。
650	ホリナートカルシウム	局所進行直腸癌患者155例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン静注投与とテガフル・ウラシル/ロイコボリン経口投与を比較した多施設ランダム化試験において、前群で1例が急性の白血球減少症により、1例が急性腸穿孔により、2例が遅発性消化管合併症により死亡した。また、後群では外科手術の重篤合併症により1例が死亡した。
651	レボホリナートカルシウム	ステージⅡ/Ⅲ結腸癌患者1857例を対象としたアジュバント療法に関するランダム化臨床試験において、2例が腸敗血症(FLOx療法)で、3例が腸壁損傷と腸敗血症(2例FLOx療法、1例FL療法)にて死亡した。
652	ベシル酸アムロジピン	胃腸障害が事前にあった患者において、カルシウム拮抗薬服用中に胃食道逆流性症状の悪化が見られた。
653	アセトアミノフェン	インフルエンザに罹患した国内の小児において、アセトアミノフェンを使用している群は、未使用群と比較して、意識障害の発現リスクが高まることが示唆された。
654	イブプロフェン	慢性心不全の既往のある患者において、イブプロフェンを含む非選択的NSAIDsの服用により、死亡率・慢性心不全や心筋梗塞による再入院率が高まることが示唆された。
655	マレイン酸フルボキサミン	副甲状腺または甲状腺の可視化剤として塩化メチルチオニウム(メチレンブルー)を静脈内に投与した際に中枢神経系毒性が生じた27例中、26例でセロトニン作動薬が使用されていた。
656	ベザフィブラート	糖尿病性高脂血症患者において、フィブラートとチアゾリジンジオンの併用治療により、HDLコレステロールが低下することが示唆された。
657	エストラジオール	40-65歳の女性において、エストロゲン単独療法を行った患者で乳癌のリスクが高まることが示唆された。